



できごと

平成 21 年度の子ども図書研究室講座を平成 21 年 11 月 18 日(水)と 12 月 2 日(水)の 2 日にわたり行いました。テーマは「初めての読み聞かせ」です。

現在、図書館や学校以外に多様な場面での「読み聞かせ」が広がり、それに応じて、ボランティアの募集なども行われています。

読み聞かせてってどんなことをするのか、やったことないけれど、私にもできる? そんな疑問を解消していただくため、読み聞かせ未経験の方を対象に、集団への読み聞かせに向く絵本の選び方、本の持ち方など、読み聞かせの基本を学んでいただきました。

(裏面にて、概要を紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示
耐震補強工事のためお休みしています。

イベント情報

国際子ども図書館

展示会「日本発 子どもの本、海を渡る」関連講演会
『ひろしまのピカ』が海を渡ったとき
～日本の絵本の翻訳出版に携わって

日時：2010年3月6日(土)午後2時から

対象：中学生以上

講師：栗田明子氏(日本著作権輸出センター相談役)

会場：国際子ども図書館3階ホール(入場無料)

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

定員：100人(先着順・2月26日(金)締切)

*申込方法など、詳細は、国際子ども図書館ホームページをご覧ください。

*4月24日(土)には「翻訳は三人四脚『精霊の守り人』の作者と訳者、大いに語る」と題して、上橋菜穂子氏、平野キャシー氏(翻訳家)の講演会が予定されています。

新着資料から

知識

『海は生きている』



富山 和子 / 著

講談社

2009年10月

『川は生きている』に始まった「生きているシリーズ」の完結編。海と人間との関わりについて、水産資源や物流といった物質的な面のみでなく、浦島伝説や歌なども含めた文化的な面も取り上げ、幅広い視点から考察する。

また、自然環境における水の循環や、進化の過程での環境と生物の関わりなどについて説明し、海を守るためには私たちの生活の在り方を考えることが必要だという事をわかりやすく紹介している。環境問題の入門書としておすすめの1冊。【小学校中学年から】 (剣持)

物語

『ウィットントン』



アラン・アームストロング / 作

S. D. シンドラー / 絵

もりうち すみこ / 訳

さ・え・ら書房

2009年11月

両親がなく貧しいウィットントンが、有能な猫によって事業で成功し、社会的地位を得たという昔話と、やはり両親がなく、祖父母に育てられている姉弟や、祖父が引き取った落ちこぼれの家畜たちの物語が交錯するファンタジー。昔話を語るのは猫の子孫で、ウィットントンの名前を持つ猫。読字障害を持つ弟ベンが家畜たちと物語を聞くうちに、物語に導かれたかのように、家畜たちに励まされ障害に立ち向かおうとする姿に感動する。真摯に努力する人の傍らには、その人を成功に導く猫がいるのかもしれない。【小学校高学年から】 (牧田)

平成21年度子ども図書研究室講座 「初めての読み聞かせ」報告

読み聞かせをするときには、絵が遠くからもよく見えるか、お話(ストーリー)が分かりやすいか、日本語のリズムなどにも注意して、本を選びます。

昔話絵本を選ぶときには、ぜひ色々な絵本を比較してから選んでください。例として「3匹のこぶた」を取り上げ、本によって様々な違いがあることを知っていただきました。

まずは、これまで長い間子どもたちに読みつがれてきた絵本から始めましょう。奥付を見ると、その本の年齢がわかります。ブックリストも参考にしてください。

本を選んだら、それをどう読むかに入ります。まず、1人1冊ずつ絵本を持ち、開きぐせをつけました。それから、本の持ち方、めくり方についても、実際に本を手に持ち、めくって、実習をしました。

子どもたちに読み聞かせを行う前には必ず練習をしてください。聞き手に絵が見えるように、つまずかないで読めるように、遠くからも聞こえる声の大きさと、本番のつもりになって何度も声に出して読んでみます。このとき、グループで活動している場合には、他のメンバーに見てもらい、注意してもらおうと、お互いに参考になります。読み聞かせが終わってからも、必ず振り返りをしてください。

ボランティア参加の際の注意点
ほとんどの場合、読み聞かせはボランティアとして活動することになります。そこで、ボランティア活動の4原則(自発性、公益性、無償性、創造性)の紹介のほか、実際に当館で募集している読み聞かせボランティアの「ボランティア心得」なども見ていただきながら、具体的な活動内容や、ボランティア活動に参加する際の注意点について、学んでいただきました。

2 日目はグループになり、実際に読み聞かせの実演を行いました。使用する絵本は、1日目にお渡ししたリストの中から自分の読みたい絵本を選び、それを自宅で十分に練習してきていただきました。

それぞれが絵本の読み聞かせをし、聞き手に回った受講生がアドバイスをするという形式で行いました。声の大きさ、絵本の持ち方、読むスピードなど、聞くことで様々な発見がありました。また、どうしてその絵本を選んだのかについても話し合いました。

読み聞かせと著作権
通常、ボランティアとして絵本を読み聞かせするだけなら、著作権を気にする必要はありませんが、絵本を拡大コピーしたり、人形劇にしたりするときには著作権者の許諾が必要になりますので、注意が必要です。

そのほか、わらべうたやストーリーテリングについても体験していただきました。

終了後のアンケートには、「読み聞かせの難しさを実感。今回の受講で色々得たことを実際の現場で生かせたらと思っています。」「挑戦できる勇気をもらいました。」「何の本でもよいということでないことも知り、これからの勉強になりました」などの声がありました。

今回の講座受講を機会に、ぜひ読み聞かせにチャレンジしていただきたいと思います。

所蔵資料から

研究書

『おもしろい本みつけた

絵本と子どもの本のリスト』

富士宮市教育委員会 / 発行

2005年9月



市民読書サポーターが選定。赤ちゃん絵本、絵本、昔話絵本などのジャンル別。また、子どもの本について書かれた本を、大人に向けてすすめるページもある。集団への読み聞かせに向くと思われる絵本には印が付されている。

(鈴木由)

*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。